

鉄道博物館収蔵のナデ 6110 形式 6141 号電車が 国の重要文化財指定へ

- 当館で収蔵するナデ 6110 形式 6141 号電車が、文化庁の文化審議会答申（2017（平成 29）年 3 月 10 日）を受け、国の重要文化財（美術工芸品）に指定される運びとなりました。（正式な重要文化財の指定は、官報に掲載後となります。）
- 当館で収蔵する国の重要文化財は、1 号機関車（150 形式）【1997（平成 9）年指定】、鉄道古文書（明治時代の鉄道創業期の鉄道建設・運営に関わる公文書群）、1 号御料車（初代）【いずれも 2003（平成 15）年指定】に次いで、4 件目になります。
- また、本指定は、鉄道用電気車両（電車）としては、「日本初の地下鉄車両 1001 号電車」とともに、初の重要文化財指定となります。

【ナデ 6141 号電車の概要】

- 製造年 1914（大正 3）年
- 製造所 鉄道院新橋工場
- 全長 約 16m
- 定員 92 名
- 特徴

- 鉄道院最初のボギー電車（車体の前後に 2 軸の台車を装着した車両）として 1909（明治 42）年に製造されたホデ 6100 形式の改良タイプで、ボギー電車では現存する最古の車両です。
- 都市近郊における鉄道輸送の需要増大に対応するため、鉄道院で初の 3 扉車であるとともに、統括制御装置を本格的に導入し、重連運転を可能とした点が最大の特徴です。
- 本電車は、1925（大正 14）年に私鉄（目黒蒲田電鉄・現東京急行電鉄）に払い下げられたのち、1972（昭和 47）年に国鉄へ返還され、大井工場で復元工事が実施されました。同年、鉄道記念物に指定されました。その後、JR 東日本東京総合車両センターで展示のための復元工事が実施され、2007（平成 19）年の開館時から展示しております。



当館ヒストリーゾーン ナデ 6110 形式 6141 号電車の展示の様子

(参考資料) ナデ 6110 形式電車について

○概 要

ナデ 6110 形式電車は、山手線、中央線で使用するために 1911(明治 44)年から製造された電車で、当時、急速に増加しつつあった通勤・通学客を輸送するため、それまでの 4 輪単車に代わり、前後にそれぞれ 2 本の車軸を持つボギー台車を採用しています。全長は約 16m と、当時としては大形の車両でした。木造の車体はロングシートや片側 3 扉の乗降口をそなえてスムーズな乗降を実現し、複数の電車を 1 ヶ所の運転台によって編成単位で制御できる総括制御方式を採用するなど、今日の国鉄・JR 電車の通勤形の原型となった設備をそなえていました。

ナデ 6141 号は、1914(大正 3)年に鉄道院新橋工場で製造され、国有鉄道の電車としては最も初期に登場したグループのうちの 1 両です。中央本線や山手線の電車区間で使用されたのち、1925(同 14)年以降は私鉄で用いられ、目黒蒲田電鉄、芝浦製作所、鶴見臨港鉄道と移籍を繰り返し、同鉄道が国有化されたことにもない再び国鉄へ復帰しました。その後 1950(昭和 25)年には茨城県の日立電鉄に移り、長く使用されています。

1972(同 47)年には、鉄道開業 100 年を記念して、電車としては初めて鉄道記念物に指定され、復元工事をへて翌年に国鉄大井工場にて公開されました。2007(平成 19)年の鉄道博物館開館にもない、JR 東日本東京総合車両センターから当館へ移され、ヒストリーゾーンで保存・展示されております。

○ナデ 6110 形式ナデ 6141 号履歴

1914(大正 3)年 3 月 31 日	鉄道院新橋工場で製造
1914(大正 3)年 8 月 29 日	デハ 6293 に改番(デハ 6285 形式)
1925(大正 14)年 1 月	目黒蒲田電鉄(現・東京急行電鉄)に譲渡、モハ 41 となる(40 形)
1930(昭和 5)年 3 月	芝浦製作所に譲渡、工場の牽引車として事業用に使用(モハ 41)
1930(昭和 5)年末	鶴見臨港鉄道(現・JR 東日本鶴見線)に譲渡、モハ 202 となる(200 形)
1940(昭和 15)年	モハ 142 に改番(140 形)
1943(昭和 18)年 7 月 1 日	鶴見臨港鉄道国有化により国鉄に編入、モハ 142 となる(形式番号変わらず)
1950(昭和 25)年 7 月 30 日	日立電鉄(廃止)に譲渡、モハ 101 となる(モハ 101 形)
1964(昭和 39)年 12 月 23 日	デワ 101 に改番(電動貨車化)
1972(昭和 47)年 3 月	国鉄へ返還決定
1972(昭和 47)年 8 月	国鉄大井工場で復元・整備工事開始
1972(昭和 47)年 10 月 14 日	鉄道記念物に指定
1973(昭和 48)年 10 月 12 日	復元工事完成し大井工場で静態保存
1987(昭和 62)年 8 月	パンタグラフを併設し動態化、大井工場構内で走行
2007(平成 19)年 10 月 14 日	鉄道博物館に保存、展示

○おもな諸元

軌 間 1067 mm
電気方式 電圧：直流 600V 集電方式：架空線式／ポール集電装置(2 本)
主要寸法 最大長：15977 mm 最大幅：2553 mm 最大高さ：3651 mm
自 重 35.5t
定 員 92 人(座席 48 人、吊手 44 人)
座席配置 縦(ロングシート)

※沢柳健一・高砂雍郎編『旧型国電車両台帳 院電編』2006 年 ジェー・アール・アール、
鉄道友の会『院電ナデ 6141 号電車調査報告書』2017 年などをもとに作成しました。